かんたん　初めての

スプレー菊のつくり方

スプレー菊は 1970 年代にオランダから導入され、日本の気候風土に適合させる品種改良がされた菊です。

その特徴は節間が長く、伸びやかな草姿となり、花房は大きく鮮明な花色となり、色が豊富です。

現在は品種改良が進み、花径が 10 センチに近い大輪から 2 センチくらいの小さな花など、様々です。

また花形も一重咲きのスタンダードから二重咲き、アネモネ咲き、デコラ咲き、ポンポン咲きなど多くの種類があります。

鉢・プランターで楽しむ … スプレー菊

スプレー菊は短期間で一気に育てることが重要で、栽培上のポイントです。
その為植え付けの適期は 8 月の上旬が基本となります。
しかし初めてスプレー菊を作る場合は、苗の入手方法は購入苗が一般的となる関係、なかなか適期の植え付けとはなりません。そこで育て方（仕立方）は制約を受け、入手時期に合わせた作りとなります。
2 年目以後は自前でサシ芽により苗つくりができるので、仕立方は自由になります。

これだけは最低用意しておきたい用具種

①プランター　②鉢　③支柱
④クイックタイ（ビニタイ）緑色　⑤鉢底アミ

⑤計量カップ　⑥土入れ　⑦ハサミ
⑧ジョウロ　⑨ハンドスプレー　⑩スポイト
その他計量スプーン

ポット苗

プラグ苗

スプレー菊の土
スプレー菊の肥料
スプレー菊の液体肥料

購入苗で作る初めてのスプレー菊 … 菊花会、菊友からの分譲苗など

植え付けは苗を入手したらなるべく早く行います。
ポット苗で届いた場合は1～2日の間に、またポリ袋に入ったプラグ苗の場合は当日か遅くも翌日までには植え付けます。苗の販売は 5 月～ 6 月が中心となる為スプレー菊の植え付け適期には早過ぎることになります。
その為、背丈が伸び過ぎてスプレー苗の草姿にはなりません。
そこで摘心（芽先を摘むこと）をすることで伸び過ぎないようにします。
こうして植え付けが早過ぎた分の調整をします。
植え付けの適期に苗が入手できればそのまま育てます。
2 年目は今年の株を元にしてサシ芽で苗を育てる為、適期の植え付けができるようになります。

苗の購入先
● 南砺市園芸植物園様　Tel. 0763-22-8711
発送期間は５月～７月
● イノチオ精興園㈱様　Tel. 084-950-0151
発送期間はお問合せください。

購入苗を植え付ける

● 7 号鉢 3 株植え

① 排水材（軽石）を入れる 1.5～2 センチ

② 培養土を棒切れで軽く突きながら入れる

③ 3本大きさのそろった苗を組み合わせる

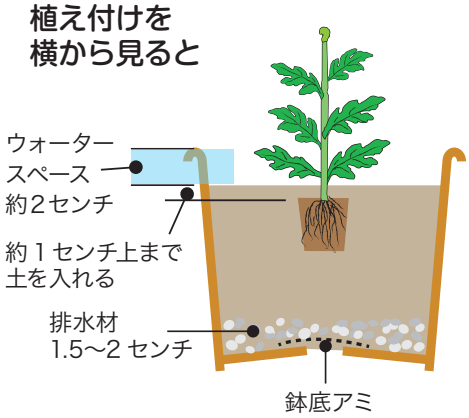
④へ

④ 軽く棒切れで突きながら土を詰め植え付けます

⑤ 植え付けたらタップリと鉢底から水が流れ出るまで掛けます。

⑥ 4～5日後（根付くのを待って）乾燥肥料大サジ1.5杯～2杯与え、土をかぶせます。

植え付けを横から見ると



● プランター 3 株植え

● 6 号鉢 1 株植え

植 え 方 の 手 順 は 同 じ

植え付け（定植）後の育て方

● 植え付け直後の日除け

根づき、根が働き始めるまでは数日かかります。この間は根の働きが低下するために水を吸い上げる力が弱まります。この間は日除けが必要になる場合があります。
ポット苗は根の量が充分にあるためしおれにくく、日除けを必要としない場合が多く、プラグ苗は数日間の日除けが必要になります。

日除けはスダレ１枚くらいの遮光でよく、あまりしおれ方がひどいと、初期生育が遅れ後々の生育が悪くなってしまいます。日除けは長いほど良いものではなく、根づく間のできるだけ短期間にとどめます。
日除けは徐々に時間を短くし外します。

● 水の掛け方

植え付け直後の水掛けはタップリと二度掛けします。
土の撥水性を取り除き、鉢全体に均一に水をしみ込ませる為です。次の水掛けは乾くのを待ってタップリと掛けます（早朝見てしおれ気味になってからで大丈夫です）
苗が生長して大きくなってくると吸水量が増える為、水掛けの間隔が短くなります。
“菊つくり最悪の失敗は根ぐされです”　その原因は水の掛け過ぎです。“水掛けの基本は乾くのを待ってタップリと掛ける”ことです。

● 肥料の与え方

乾燥肥料の与え方

初回の乾燥肥料は植え付けてから４～５日後に与えます。表土に置き軽く土をかぶせます。次は２週間後を目安に与えます。
最後の乾燥肥料は８月末～９月始めで終了します。
２週間ごとに与える理由は乾燥肥料の肥効期間と関係があり、通常３週間程度効き続け、２週間をピークに肥効が落ちてきます。
２週間で追肥する理由は効き目の谷間を作らないようにするためです。
土をかぶせる理由は効き目を安定させるためです。肥料は乾くと溶け出しません。土をかぶせ水分を安定させることで肥料は平均的に溶け出すようになります。

１回の与える量＝６号鉢：約 20 グラム、プランター：30 ～ 40 グラム

液体肥料の与え方

液体肥料は通常水掛けする時に規定の倍率に薄めて掛けます。

植え付け直後は 1500 ～ 2000 倍くらいに薄めて使用します。植え付け 1 週間過ぎからは 1000 倍に薄め 7 日の間隔を目安に与えます。
蕾が見えてきたら 1500 倍～ 2000 倍くらいに薄め 7 日の間隔で 10 月中旬まで与えます。
9 月になると木つくりが充分なもの、生育に遅れがあるものなどいろいろできてきます。草勢を見ながら与え方を調整する必要があります。

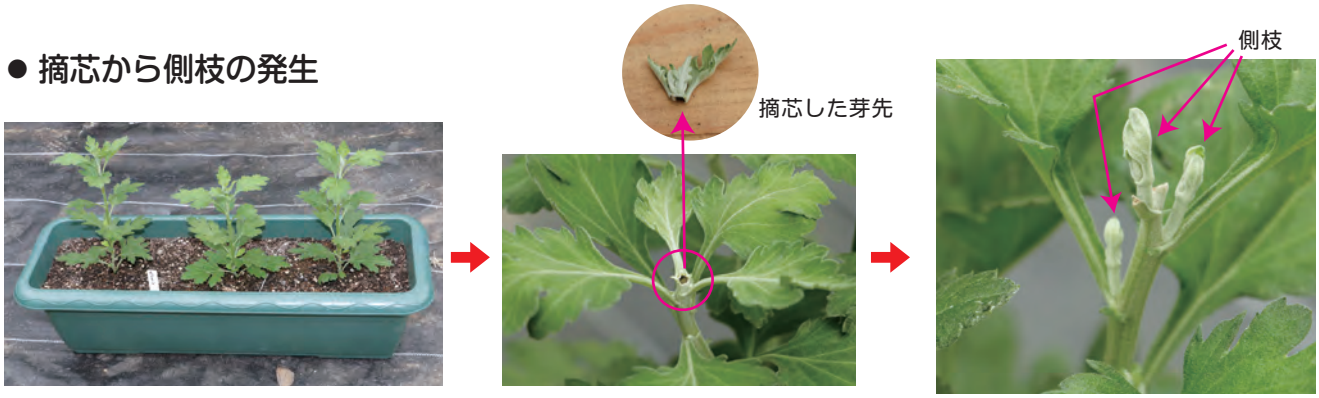
※１cc の液体肥料を 1000cc（1 リットル）の水にうすめると 1000 倍になります。

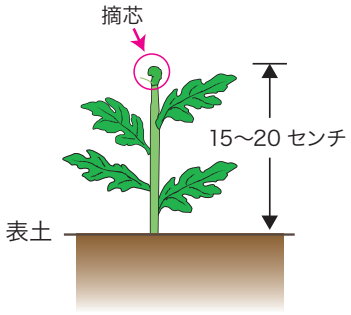
草丈の調整法…草姿を整える為の摘芯

5 月～ 6 月に購入し、植え付けた苗はそのまま育てると背丈が伸び過ぎ（1.5 ～2メートル）てしまいます。さらに柳芽がつき枝分かれをする為、草姿はスプレー菊とは掛け離れた“菊数”の状態になってしまいます。そこで背丈の伸びをおさえ、草姿を整える為に摘芯（芽先を摘み新しい枝に更新する）し、数本の側枝を発生させ、観賞しやすい高さにします。

早く植え付けた場合は 2 回の摘芯、7 月上旬～中旬に植え付けた場合は 1 回の摘芯、7 月下旬～ 8 月に植え付けた場合は無摘芯で育てます。
3 回以上の摘芯は花つき、花が小さくなる為、おすすめできません。また、栽培環境や土・肥料などによっても生育の状態は大きく変わります。一様には育たない為、“それも楽しみ”と考えることも大切です。

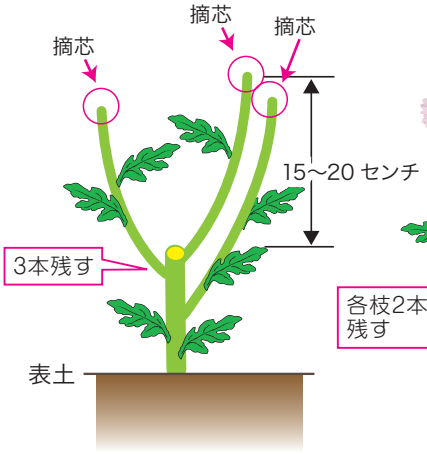
● 摘芯から側枝の発生



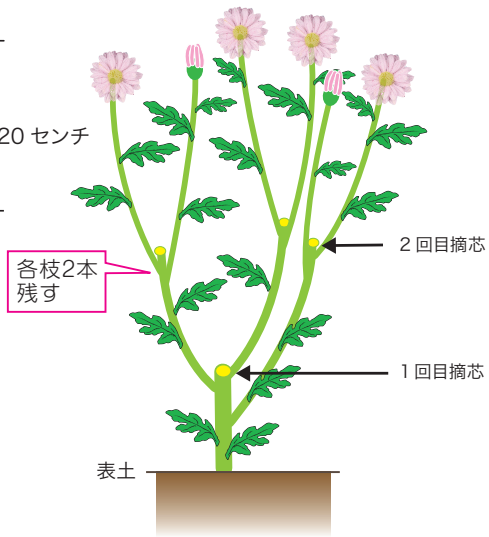


第1回目の摘芯

早めに定植した場合は少し高めの位置で摘芯してもよい。
花の咲く高さ１メートル～1.2メートルくらいが目標です。



2回目の摘芯

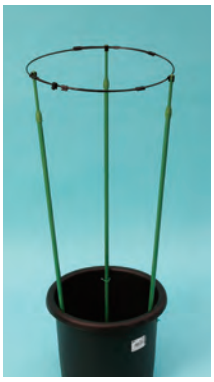


※7号3株植え、6号1株植え　プランター植えも同じ方法
但しプランター植えは支柱が固定しにくい為、低めに作るのが無難

支柱の立て方

摘芯をくり返し側枝を伸ばす為、通常の棒状の支柱は使用しにくいと思います。
リング支柱を使用するのが良さそうです。

ダルマ作り用支柱


スプレー菊の支柱

※スプレー専用の支柱又はダルマ作り用の支柱にドーム菊の“花ささえリング”を組み合わせた物です。
（石黒商事製の商品です。
TEL　0764-22-1496）

花後の管理

花が終わったら花房を切り取る

お礼肥

葉が枯れたら、根元から切り取る。

※越冬病害虫を春に持ち越さないように

来年もよい花を咲かせる為の花後の管理
… お礼肥の与え方・冬至芽の育て方　越冬病害虫防除対策

11 月の中～下旬になると花に生気がなくなってきます。
葉ッパを出来るだけ多く残し花の部分を切り取ります。
「よい花を咲かせてくれてありがとう」の感謝の気持ちを込めて“お礼肥”を与えます。
消耗した体力を回復させる為です。
病害虫を翌年に持ち越さない為、葉ッパが枯れるか冬至芽が充分に育ってきたら、地除で切り取ります。
いづれも来年の苗取りをする為の準備です。
苗取りは鉢のまま越冬し、冬至芽をサシ芽により苗つくりをする方法と、冬至芽が発生している場合は株分けによる方法がありますが、鉢のまま越冬する方が確実です。
フレームに入れて越冬するのが理想ですが、特に寒さの厳しい地方でない場合は日当たりのよい軒下などでも大丈夫です。
肥料は乾燥肥料を3～4週間に一度、通常の量よりひかえめに与えます。
水掛けは5～6日に一度、しおれさせないように与えます。

病害虫対策

愛好家にとって噴霧器による農薬散布は「頭が痛くなったり」「気分が悪くなる」などの話をよく聞きます。
さらにご近所様のことを考えると決して軽いものではありません。
しかし自然界では害虫や病原菌は様々なものが存在し、大きな被害を受けているのも事実です。
農薬散布を減らすには「病気にならなければ」「害虫の被害を受けなければ」農薬散布は必要ない。この考え方が出発点となります。
病原菌に対しては「元気に専科」により茎葉の表面を丈夫にすることで病原菌の侵入を防ぎ大幅に被害を受けにくくなります。

油虫、ダニ等小さな害虫に対しては※デンプン系殺虫剤のネバネバ成分による気門封鎖で窒息死、ハマキ虫、ヨトウ虫など大きな虫に対しては、表土に散布し、根から吸わせるタイプの浸透移行性殺虫剤などが有効です。
これで対処できない場合のみ農薬を散布します。
この場合も最近見掛ける殺虫殺菌どちらにも使えるハンドスプレータイプの薬剤もあり手軽に使えそうです。
病害虫対策は早期発見、早期対応がなにより効果的です。

※当社では住友化学の“粘着くん”デンプン液剤を使用しています。

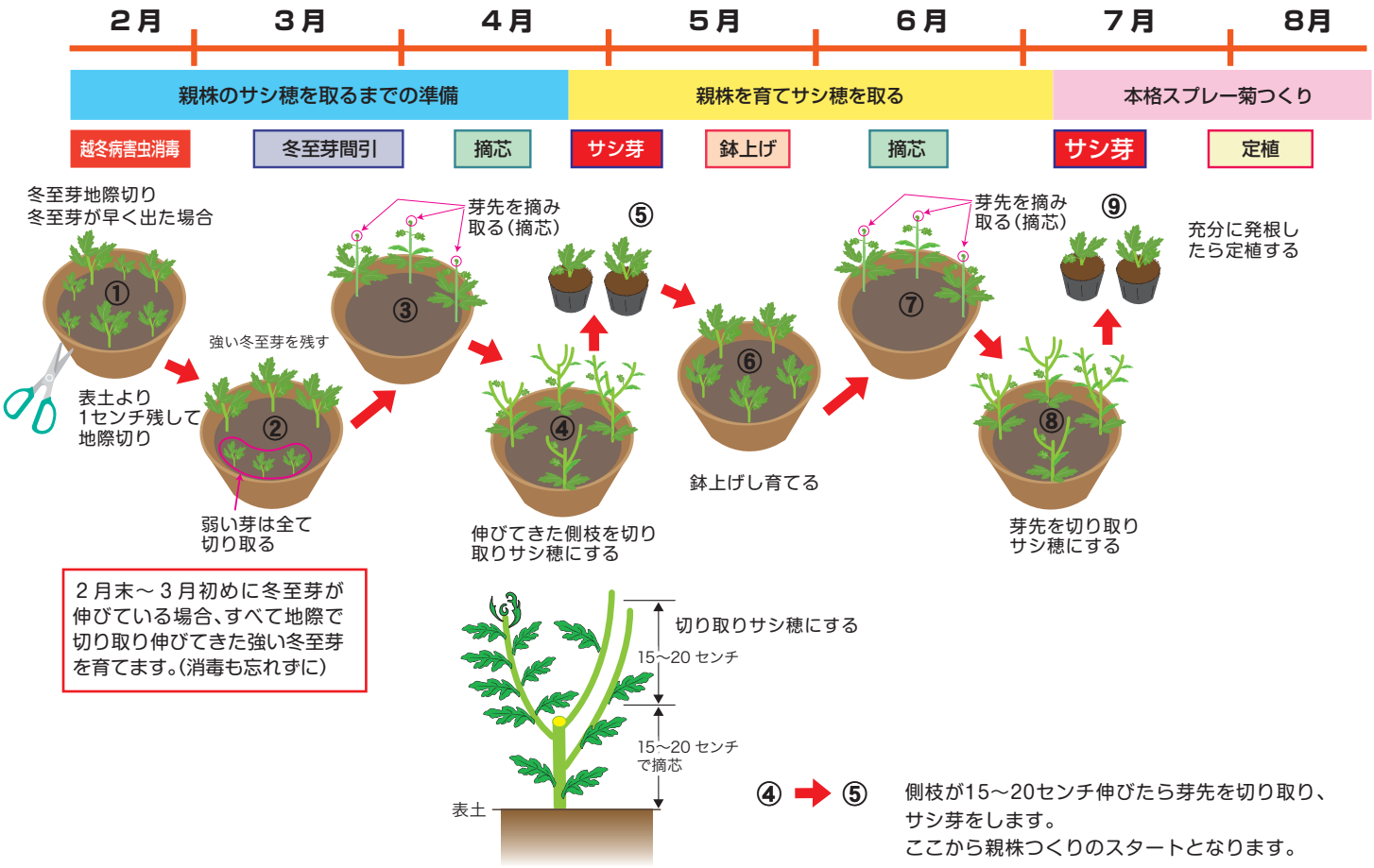
2 年目以後は

適期のサシ芽と植え付けでスプレー菊の魅力倍増

2 年目以後は前年度花を咲かせた株が残っています。
その冬至芽を元に「親株を育てサシ穂を取る」そのサシ穂を使い苗つくりをします。
この面倒な方法は、スプレー菊の植え付け（定植）の適期が 7 月末～ 8 月上旬である為、
サシ芽の時期を後に無理なく遅らせて適期の植え付けとし、スプレー菊独特の伸びやかな草姿に育てる方法です。
また苗を増やす方法でもあります。
さらに柳芽による枝わかれを防ぎ、スプレー菊本来の草姿に仕立てる方法でもあります。
この日程は定植時期を起点に逆算することで決まります。

栽培スケジュールの目安 … 冬至芽の管理から親株つくり

2月末から3月に入ると冬至芽が伸び始めます。
すべての冬至芽を地際で切り取り越冬病害虫を持ち越さないように入念に消毒を行います。
次に伸びてきた鉢の外周近くの勢いのよい強い芽を残し弱い芽はすべて切り取ります。
15 ～ 20 センチ伸びたところで摘芯し側枝の発生を促し親株の為のサシ穂に使用します。
冬至芽が遅れて発生した場合は、 下記図②からの手順で行います。



① ➡ ②　冬至芽をすべて地際で切り、新芽の発生を促す。
乾燥肥料約20グラム散布。軽く土をかぶせる。

② ➡ ③　草勢の強い芽のみ残し、弱い芽はすべて切り取る。
乾燥肥料約20グラムを残した芽の近くに置き、
軽く土をかぶせる。

③ ➡ ④　芽が15～20センチ伸びたら芽先を摘み取り、
（摘芯）側枝の発生と伸長を促す。
乾燥肥料約20グラムを置き軽く土をかぶせる。
液肥1000倍を2～3回、2～3日間隔で与えます。

④ ➡ ⑤　側枝が15～20センチ伸びたら芽先を切り取り、
サシ芽をします。
ここから親株つくりのスタートとなります。

⑤ ➡ ⑥　サシ芽が発根したら7号鉢に3～4本植える。
乾燥肥料約20グラムを散布し軽く土をかぶせる。

⑥ ➡ ⑦　芽が15～20センチ伸びたら芽先を摘芯し側枝の
発生を促します。
乾燥肥料約20グラムを置き軽く土をかぶせる。
液肥1000倍を2～3回、2～3日間隔で与えます。

⑦ ➡ ⑧　側枝を育て15～20センチ伸びたら切り取りサシ穂
にします。

⑧ ➡ ⑨　サシ穂を調整しサシ芽をします。

サシ芽の手順 … 終わってみれば意外と簡単　とにかく始めて下さい。

菊つくりは一本の苗を購入しそのまま育て花を咲かせることは特別な事情がない限りありません。
親株に育てサシ芽により苗を増やして使用するのが普通です。よって菊つくりでは“サシ芽”は切っても切り離すことのできない重要な技術です。
サシ芽を成功させる為には“健全な親株を育て充実したサシ穂”を取ることにあります。
サシ穂の出来映えにより分止まりや苗の善し悪しが決まってしまいます。
その為には親株の肥培管理や病害虫の防除は欠かせません。
サシ芽には育苗箱にサシ芽をする「箱ザシ派」とポットにサシ芽をする「ポット派」があります。
現在は“ポット挿し”に移行している愛好家が多いように思います。
また、サシ芽用土についても従来の鹿沼土、くん炭、バーミュライトなどを使用した無菌派もいますが、有益微生物の働きを利用した“ハイブリットさし芽用土”がおすすめ。

事前に用意する物、準備する物

●サシ芽用土（３～４日前に充分水を含ませなじませておく）　●発根剤（ルートン又はオキシベロン　使い慣れている方がよい。初めての場合はルートンが失敗が少なくおすすめ）　●水上げに使用するコップ等容器　●育苗箱（＝サシ芽箱と言う方もいる）又はサシ芽用ポット（スリットポット）　●品種名を書くラベル等　●水上げ用の活性剤などです。

① サシ芽用土の準備

3～4日前に充分に水をしみ込ませなじませておく

② サシ芽用土をポットに移す

用土はポットに移し軽く押さえておく

③ サシ穂の採取

勢いのよい充実したものを切り取る

④ 水上げ

２～３時間水上げをする。“ピン”としなければするまでしっかりと水上げする。
「透水源」がおすすめ。花名のラベルは忘れずに。

⑤ サシ穂の調整

展開葉５～６枚をつけて調整する。用土への“挿し代”３～４センチを見込んでおく。
穂の長さ9～10センチくらい。

⑥ 穂の差し穴を明ける

サシ穂の太さより少し大きめ
底につくまで

⑦ 発根剤をつかう

「挿し代」３センチくらい発根剤をつける

⑧ 穂を挿し、軽く押さえる

底につくまで挿し
挿し穂と用土を密着させる

⑨ 挿し終わったらタップリと水掛け

⑩ 挿し芽の置き場所

直射日光をさけ、軒下など明るく風通しのよい場所に置きます。

（注）●サシ芽はしおれが大敵。挿し芽直後のしおれ（サシ穂が倒れる）は発根を遅れさせる原因になる。発根に時間がかかると穂が腐る原因になる。
●水掛けは極力ひかえサシ芽用土に水分がある場合は掛けない。水が切れたらタップリと水を掛けます。

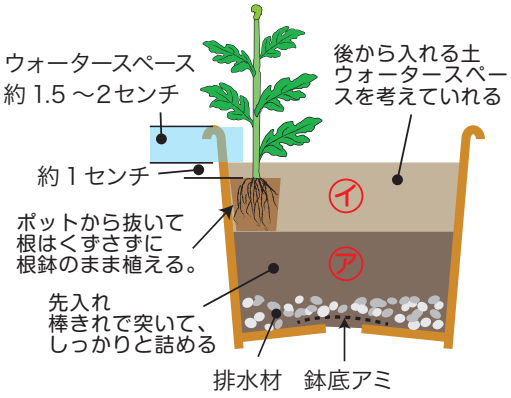
植　え　方　購入苗で作るスプレー菊と同じ

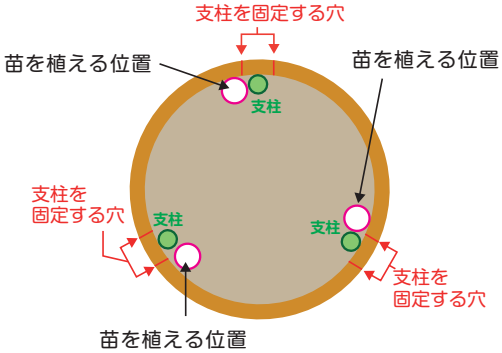
①７号鉢に鉢底アミを入れ、その上に排水性（軽石等）を１～1.5センチ入れます。

②次に培養土を入れ棒きれ等で突きながら固く詰め込みます。
先に㋐の部分の土を入れ、苗を配置し㋑の部分の土を入れます。苗は鉢フチに押しつけるように植えます。

③植え終わったら鉢底から抜けるまでタップリと水を掛ける。
数分後にさらに１回掛ける。次の水掛けは乾くのを待って鉢底から抜けるまでタップリと掛ける。

（注）植え終わった後の重さと水掛けの終わった後の重さを手で持って覚えておくとよい。なれない間は持って乾いたことを確認するとよい。





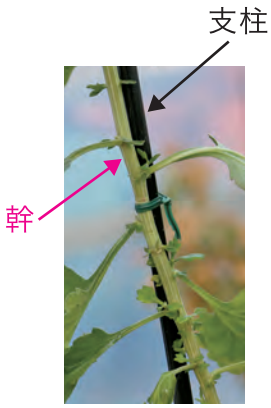
（注）幹は支柱の外側にまわして固定する為、支柱近くに植える。

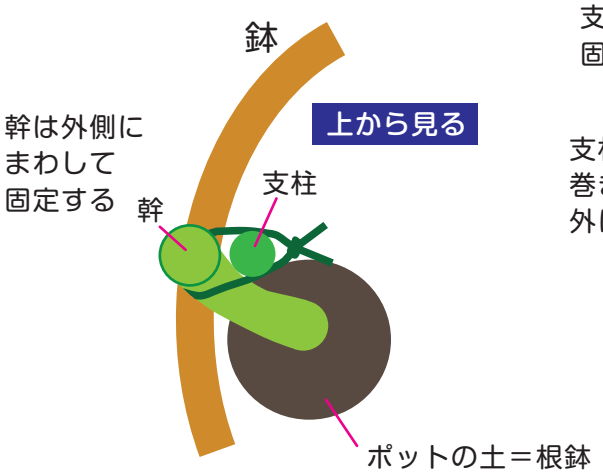
（注）支柱は 30 ～ 40 センチ伸びた頃立てる。苗を植える時には支柱を止める穴を目安に位置をきめる。

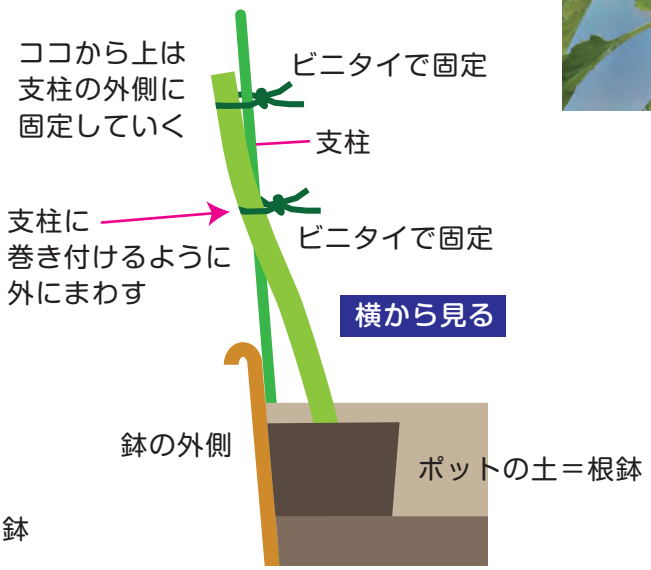
支柱の立て方と幹の固定法

鉢フチにつけて立てる。
内外に傾かないよう、さらに手前と後ろの傾きにも注意して立てる。
幹は表土から10～15センチ上部にかけて少しずつ外側にまわして固定する。

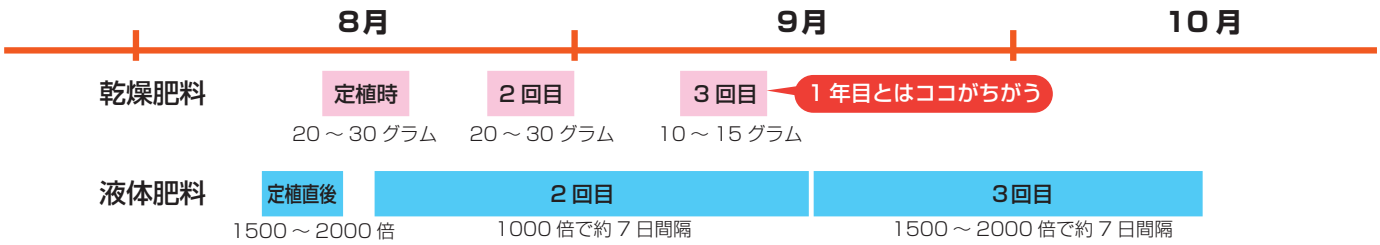
※無理にまわすと葉を落とすので注意する。





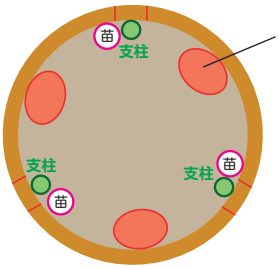


肥料の与え方



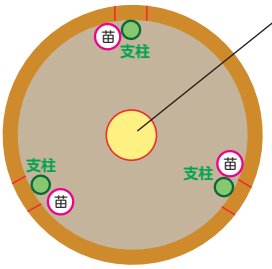
乾燥肥料の与え方　元肥・追肥とも３カ所又は中央１カ所どちらでもよい

元肥　乾燥肥料



3カ所に分け
20～30グラム置き
土をかぶせる
定植後4～5日後

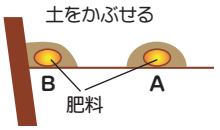
追肥　乾燥肥料



中央に
20～30グラム置き
土をかぶせる
元肥から15～20日後
（8月20～25日頃）

※最終9月10～15日
約10グラム与えます。
木つくりが充分な場合
は必要ない。

●置いたら必ず土を
かぶせます。



鉢の周囲も
中央も同じ

液体肥料の与え方

定植～9月中旬までは７日間隔で1000倍で与えます。
9月下旬～10月上旬までは2000倍で７日間隔で与えます。
※定植直後の1回目は1500～2000倍で与えます。

こんなことにも気くばり

よいサシ穂と悪いサシ穂

サシ穂の硬さは曲げてきれいな断面で折れるくらいがよい

折った所にスジが残るものはサシ穂が硬すぎる。
肥料不足かも…

サシ芽の発根状態

スリットポットによる発根状態そのまま鉢上げする。

おすすめ資材

スプレー菊つくり３点セット

スプレー菊の土

スプレー菊の肥料

スプレー菊の
液体肥料

ちょっと差が出るおすすめ資材

ハイブリッドサシ芽用土

アミノＰＫ

元気に専科

お申込み・お問い合せは

ウチダケミカルコーポレイション

Tel.029-869-1777　Fax.029-869-1666

〒300-4204　茨城県つくば市作谷1711-12　郵便振替　00820−6−96628